

# Asia Indicators

発表日: 2024 年 11 月 29 日(金)

## 韓国や台湾は「半導体頼み」を強める展開(Asia Weekly(11/25~11/29))

～生産活動は半導体への「一本足打法」の様相を強めている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

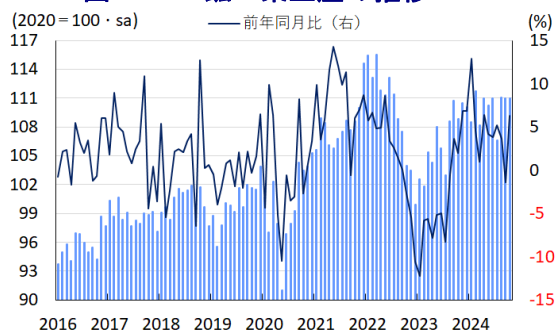
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/25(月)	( <a href="#">ニュージーランド</a> ) 10 月輸出(億 NZ ドル)	57.7	--	49.1
	10 月輸入(億 NZ ドル)	73.1	--	70.6
	( <a href="#">シンガポール</a> ) 10 月消費者物価(前年比)	+1.4%	+1.8%	+2.0%
	( <a href="#">台湾</a> ) 10 月鉱工業生産(前年比)	+8.85%	--	+11.15%
11/26(火)	( <a href="#">シンガポール</a> ) 10 月鉱工業生産(前年比)	+1.2%	+2.2%	+9.0%
	( <a href="#">タイ</a> ) 10 月輸出(前年比)	+14.6%	+5.2%	+1.1%
	10 月輸入(前年比)	+15.9%	+6.5%	+9.9%
	( <a href="#">香港</a> ) 10 月輸出(前年比)	+3.5%	--	+4.7%
11/27(水)	10 月輸入(前年比)	+4.5%	--	+1.4%
	(オーストラリア) 10 月消費者物価(前年比)	+2.1%	+2.3%	+2.1%
11/28(木)	(ニュージーランド) 金融政策委員会(政策金利)	4.25%	4.25%	4.75%
	( <a href="#">タイ</a> ) 10 月製造業生産(前年比)	▲0.91%	▲1.85%	▲3.17%
11/29(金)	(韓国) 金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.25%	3.25%
11/29(金)	( <a href="#">韓国</a> ) 10 月鉱工業生産(前年比)	+6.3%	+2.2%	▲1.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [韓国]～半導体で生産拡大が続く一方、それ以外の分野では幅広く生産活動は力強さを欠く展開が続く～

29日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+6.3%となり、前月(同▲1.4%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。なお、前月比は+0.0%と前月(同▲0.1%)から横這いとなる動きをみせており、中期的な基調も拡大傾向を維持しているものの、力強さを欠く動きとなっている。製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、食料品関連などで生産は堅調な動きをみせているものの、自動車をはじめとする輸送用機械関連や電気機械関連、化学製品関連、縫製品関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、分野ごとの跛行色がこれまで以上に鮮明になっている。財の種類別でも、中間財関連の生産に底堅さがみられるものの、資本財関連や消費財関連の生産は幅広く下振れする動きがみられるなど、外需を巡る不透明感が高まっていることに加え、内需の弱さも生産活動の足かせになっているとみられる。

図1 KR 鉱工業生産の推移

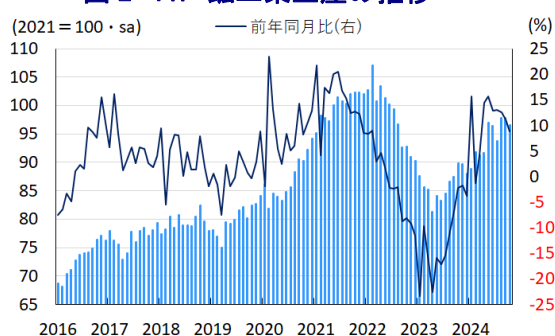


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～半導体関連の生産は依然として底堅いが、それ以外で輸出受注の鈍化が生産の足かせになる動き～

25日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+8.85%となり、前月(同+11.15%)から伸びが鈍化している。前月比も▲1.32%と前月(同+0.09%)から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一段落が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、自動車など輸送用機械関連の生産に底堅い動きがみられるものの、電気機械関連や金属製品関連のほか、化学製品関連など幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、足下の輸出受注に頭打ちの兆しが出ていることが生産活動の足かせとなっている様子がうかがえる。

図2 TW 鉱工業生産の推移



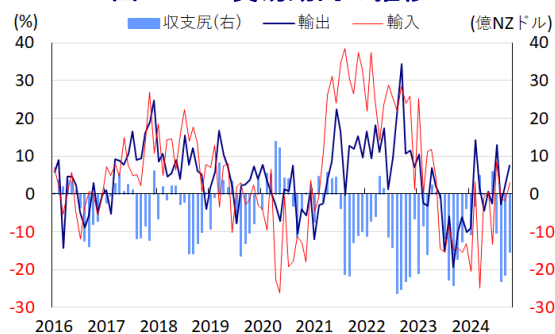
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [ニュージーランド]～輸出は底入れの動きを強める一方、輸入は総じて頭打ちの動きを強める動きをみせる～

25日に発表された10月の輸出額は前年同月比+7.5%となり、前月(同+3.0%)から伸びが加速している。前月比も+2.4%と前月(同+2.4%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、木製品関連や機械製品関連、果物などで下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、主力の輸出財である乳製品や食肉関連で輸出額が底入れの動きを強めているほか、国際原油価格の頭打ちにも拘らず原油の輸出額が大きく上振れしていることも輸出全体を下支えしている。国・地域別でも、欧州向けが頭打ちする動きをみせているものの、最大の輸出相手である中国向けや隣国のオーストラリア向けに堅調な動きがみられるほか、日本向けや米国向けも同様に堅調な動きをみせるとともに、ASEANなどアジア新興国向けも底堅く推移している。一方の輸入額は前年同月比+3.0%となり、前月(同▲1.7%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じてい

る。ただし、前月比は▲3.1%と前月（同▲1.4%）から2ヶ月連続で減少するとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸入に底堅い動きがみられるものの、自動車の輸出が大きく下振れするとともに、原油や石油製品関連のほか、電気機械関連など幅広い分野で輸入が減少の動きを強めている。結果、貿易収支は▲15.44億NZドルと前月（▲21.54億NZドル）から赤字幅が縮小している。

図3 NZ 貿易動向の推移



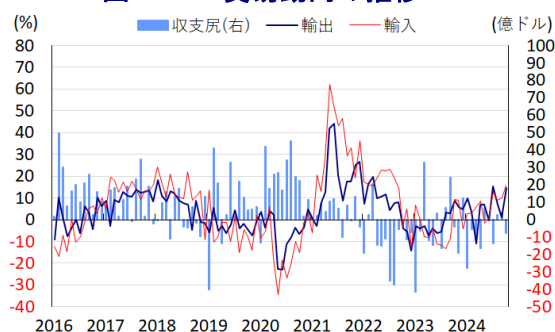
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【タイ】～輸出入で底入れが確認されるも、先行きの不透明感を受けて輸出財関連を中心に生産は弱含む展開～

26日に発表された10月の輸出額は前年同月比+14.6%となり、前月（同+1.1%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの動きが確認されるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子が見えてくる。財別では、金や宝石といった宝飾品関連の輸出が大きく上振れする動きがみられるほか、電気機械関連や発電機などの機械製品関連の輸出も底堅く推移している一方、主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連の輸出は力強さを欠くほか、農産品関連の輸出も頭打ちするなど対照的な動きをみせている。国・地域別でも、中国向けは力強さを欠く推移をみせているほか、米国向けやEU向けも同様に頭打ちしているものの、日本向けは底堅い動きをみせているほか、ASEANなど周辺のアジア新興国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+15.9%となり、前月（同+9.9%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月連続で拡大していると試算されるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。原油をはじめとする商品市況の調整の動きにも拘わらずエネルギー資源関連の輸入が大きく底入れするとともに、輸出の堅調さを反映して資本財や中間財関連の輸入も堅調な推移をみせており、消費財関連の輸入の旺盛な動きも輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲7.94億ドルと前月（+3.94億ドル）から3ヶ月ぶりの赤字に転じている。

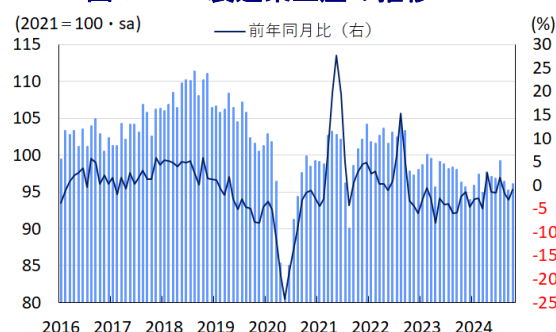
27日に発表された10月の製造業生産は前年同月比▲0.91%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなっているものの、前月（同▲3.17%）からマイナス幅は縮小している。前月比も+0.93%と前月（同▲1.17%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、頭打ちが続いた流れに底打ち感が出ている。分野別では、金属関連や化学製品関連、石油化学関連をはじめとする素材、部材に関連する分野で生産が底打ちする動きがみられるほか、縫製品関連や木製品関連など軽工業分野の生産にも底堅さがうかがえるものの、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機械関連のほか、半導体など電子部品関連や電気機械関連などの生産は下振れする展開が続いており、業種ごとの跛行色が鮮明になっている様子が見えてくる。

図4 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TH 製造業生産の推移



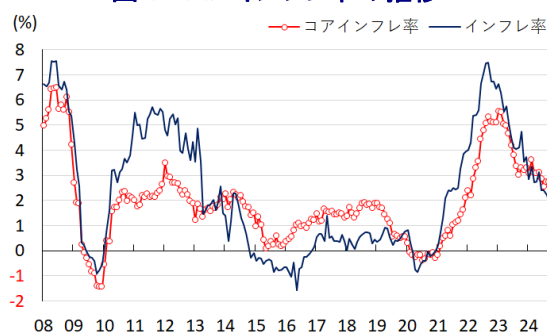
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～インフレは約3年半ぶりの水準に鈍化も、食料品に物価上昇圧力がくすぶる展開は続く～

25日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+1.4%となり、前月（同+2.0%）から鈍化して2021年3月以来の伸びとなっている。前月比も▲0.31%と前月（同+0.25%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の調整の動きを反映して総じてエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きが続くなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.1%となり、前月（同+2.8%）から鈍化して2021年12月以来の伸びとなっている。前月比も▲0.29%と前月（同+0.14%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるとともに、サービス物価も鈍化するなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。ただし、生鮮食料品に限れば上昇の動きが続いており、インフレ率が鈍化の動きを強めているものの、体感としてのインフレは高止まりが続いているとの認識がくすぶる状況にあると捉えられる。

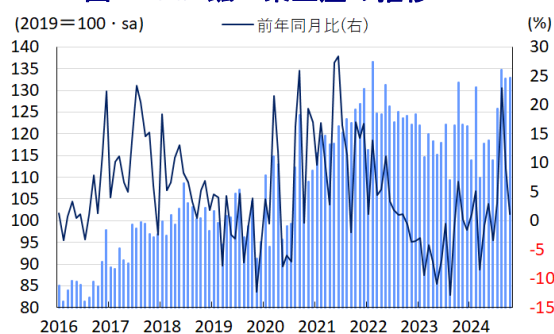
26日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+1.2%となり、前月（同+9.0%）から伸びが鈍化している。前月比は+0.07%と前月（同▲1.46%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。なお、シンガポールにおいては月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が上下双方に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があり、当月は同産業の生産は前月比▲18.67%と前月（同+39.61%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比▲1.93%と前月（同▲9.19%）から2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの動きを強めているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅さがうかがえる。分野別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産が底堅く推移しているほか、頭打ちが続いた化学製品関連の生産も底打ちする動きをみせているものの、機械製品関連や精密機械関連など幅広い分野で生産が下振れする動きをみせていることが生産全体の足を引っ張っている。

図6 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 SG 鉱工業生産の推移

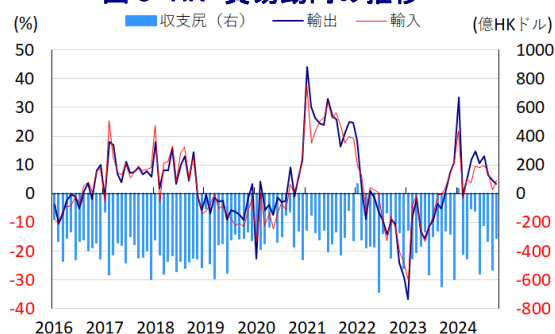


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～対米輸出に米中摩擦の激化を前にした駆け込みの動きはあるも、総じて力強さを欠く推移が続く～

27日に発表された10月の輸出額は前年同月比+3.5%となり、前月(同+4.7%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、頭打ちしてきた流れに変化の兆しが出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く動きが続いている。財別では、自動車をはじめとする輸送用機械、一般機械関連、電気機械関連、発電機などのほか、金属関連や非鉄金属関連などで底堅い動きがみられる一方、化学製品関連や縫製品関連などで輸出が弱含む動きがみられる。国・地域別では、米中摩擦の激化を前にした駆け込みの動きを反映して米国向けが底入れの動きを強めるほか、中東向けに底堅い動きがみられる一方、欧州向けやASEANなどアジア新興国向け、中南米向け、アフリカ向けなどは総じて力強さを欠く推移をみせている。一方の輸入額は前年同月比+4.5%となり、前月(同+1.4%)から伸びが加速している。前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じていると試算されるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出と対照的に底堅い動きをみせている。財別では、機械製品関連や一般機械関連で頭打ちの動きが確認される一方、化学製品関連や鉱物資源関連の輸入に底堅い動きがみられるなかで輸入全体が下支えされている。結果、貿易収支は▲310.06億HKドルと前月(▲532.04億HKドル)から赤字幅が縮小している。

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。